

# 早稲田大学現代政治経済研究所

イデオロギーラベル理解の世代差に関する実験的検証

遠藤晶久 早稲田大学政治経済学術院助手

ウィリー・ジョウ 筑波大学人文社会系非常勤研究員

No. J1402

## Working Paper Series

Institute for Research in  
Contemporary Political and Economic Affairs

Waseda University

169-8050 Tokyo, Japan

# イデオロギーラベル理解の世代差に関する実験的検証

遠藤晶久<sup>1</sup> ウィリー・ジョウ<sup>2</sup>

## 1. はじめに

本稿では、2014年2月に実施した、有権者のイデオロギー認識に関するウェブ調査実験の結果を報告する。この実験は、保守革新・保守リベラル・左右という3つの異なるイデオロギーラベルに対する有権者の理解を手掛かりに、日本の有権者のイデオロギーの認識構造を明らかにすることを目的として実施されたものである。ここでは、先行研究に踏まえて世代間の異同に焦点を当てつつ、実験の主要な結果を示す<sup>3</sup>。

## 2. 問題意識

日本におけるイデオロギー対立は、保守陣営と革新陣営の間の安全保障を巡る対立を基本軸として、政党間対立の基礎を形成してきた（蒲島・竹中，1996；大嶽，1999）。しかし、保革イデオロギーは、冷戦の崩壊と自民党による一党優位政党制の終焉を迎えた1990年代以降、その変容や溶解が指摘されている（蒲島・竹中，2012）。蒲島・竹中（2012）は、有権者の中のイデオロギー対立は弱体化し、政策対立軸も多元化しているが、しかし、同時に、保革イデオロギーの役割が完全になくなったわけではなく、いまでもその有効性は残っていることを主張している。

さらに近年になって、保革イデオロギーの意味が世代間で異なることが指摘されている（遠藤・ジョウ，2014；三輪，2014；竹中，2014；Endo and Jou, forthcoming）。遠藤とジョウは、自民党を保守、共産党を革新の端に置く伝統的な保革イデオロギー理解は50歳代以上の高齢層においては観察できるが、40歳代以下の有権者の間では共有されていないことを示した（遠藤・ジョウ，2014；Endo and Jou, forthcoming）。共産党の代わりに、40歳代以下の有権者が革新側に置くのは、日本維新の会である。遠藤とジョウの発見はウェブ調査に基づくが、代表性の担保された面接調査に依拠する竹中（2014）でもこの傾向は確認されている。その一方で、イデオロギーを保革のラベルで

---

<sup>1</sup> 早稲田大学政治経済学術院助手

<sup>2</sup> 筑波大学人文社会系非常勤研究員・早稲田大学現代政治経済研究所特別研究員

<sup>3</sup> 本稿で世代といった場合、共有された経験に基づくある特定の年齢層のことではなく、単純に年代という程度の意味で用いる。

なく、左右 (Left-Right) のラベルで位置づけさせた調査では、伝統的な意味での政党配置 (右に自民党、左に共産党) がいずれの世代でも観察されている<sup>4</sup>。

上記の結果のように、有権者のイデオロギー理解とそれに基づく政党配置は、今日では、イデオロギーラベルによって大きく変化する可能性が示唆されている。有権者におけるイデオロギー理解の混乱を解き明かしていくことは、現代日本の政党政治の規定にある有権者の政党間対立認知を理解するためには必須であると思われる。さらに、世論調査実施者やその分析者にとっても、選挙調査において長期に渡って尋ねられてきた保守イデオロギー質問について、その測定の妥当性を検討することは不可欠であろう。そこで、異なるイデオロギーラベルを有権者がどのように認識しているのかについて、調査実験によって明らかにすることを試みる。

### 3. 実験方法

有権者の間でそれぞれのラベルがどのように理解されているかを検証するために、2014年2月にウェブ調査実験を実施した。この実験コンポーネントは、地域と市民生活に関する意識調査 (実施期間・2014年2月14日から3月1日、研究代表者・遠藤晶久) と題したウェブ調査に含められた<sup>5</sup>。調査対象者は、調査会社の回答者パネルから年齢・性別・地域で割り当てをして抽出した<sup>6</sup>。回答者総数は3410名で、年代ごとの回答者数は、20歳代が596人、30歳代が936人、40歳代が641人、50歳代が635人、60歳代が554人であった<sup>7</sup>。

本実験では、イデオロギー上の自己位置と各政党の位置の認知を問う際に、イデオロギーのラベルとして「保守的-革新的」を用いるグループ、「保守的-リベラル」を用いるグループ、「右-左」を用いるグループの3つのグループに無作為に回答者を割り当てた。そのうえで、それぞれのラベルのもとで、自己と各政党の立場を位置づける質問をした。質問文は、「政治的立場を表わすのに保守的や革新的などという言葉が使われません。0が革新的、10が保守的だとすると、あなたの政治的立場は、どこにあたりますか。0から10までの数字からお選びください。」というスタンダードな形式のものである。この「保守的」「革新的」の組み合わせが、他の2つのグループでは「保守的」

---

<sup>4</sup> 東京大学谷口研究室・朝日新聞共同調査・2012年衆院選有権者調査データに基づく。データは、以下で公開されている。データ利用を可能にくださっている関係各位に感謝する。  
<http://www.masaki.j.u-tokyo.ac.jp/utas/utasv.html>

<sup>5</sup> 本調査は、科学研究費補助金 (課題番号 25780103) の支援を受けた。また、調査実施段階において荒井紀一郎先生、今井亮佑先生の多大なる協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

<sup>6</sup> 調査実施は (株) 日経リサーチに委託した。

<sup>7</sup> 年齢分類は自己回答のデータを使用した。年齢非回答の46人と70歳代と回答した2名は分析から除外した。

「リベラル」、「右」「左」となる。政党については、自民党、民主党、日本維新の会、公明党、みんなの党、共産党、結いの党、生活の党、社民党の位置を尋ねた。また、選択肢として「わからない」「答えたくない」も提示した。

政治言説でも世論調査でも伝統的に用いられてきたイデオロギーラベルは、保守と革新である。しかし、すでに指摘されているように、革新という言葉自体が有権者によって異なって理解されており、すでに政治言説においても退潮している可能性がある。実際、革新という言葉が新聞記事の見出しとされる頻度は、1980年代以降、激減している（遠藤・ジョウ，2014：Endo and Jou, forthcoming）。このような中、現在では左派のことを革新ではなく、リベラルと呼ぶ場合も多い。ただし、世論調査において保守リベラルというラベルでイデオロギー位置が測られることは稀である。さらに、保守革新や保守リベラルよりも抽象度が高いと思われるが、左右というラベル付けで政治的対立を議論することもある。近年では、東大朝日調査がこのラベルを用いている。本実験では、他のラベルの並びにあわせて、左右ではなく、右・左を用いている。

さらに、イデオロギー位置質問の直後に、各グループ共通で、様々なイデオロギーラベルが適切だと思うかを尋ねた。ここでは、3つのラベル以外に「タカ派-ハト派」「抵抗勢力-改革派」を追加した。質問文は、「政治的な立場を説明するため、いろいろな物差しが使われてきました。次にあげる言葉は政治的な立場の物差しとして適切だと思いますか。それぞれについて1つずつお選びください」である<sup>8</sup>。選択肢は4件法で「適切である」「どちらかといえば適切である」「どちらかといえば適切でない」「適切でない」に、「わからない」「答えたくない」を加えたものである。

#### 4. 実験結果

本章では、イデオロギーラベルに関する調査実験の結果を示す。年齢によって保守イデオロギー理解が異なることはすでに指摘されており（遠藤・ジョウ，2014；竹中，2014；Endo and Jou, forthcoming）、ここでも、先行研究と同様、10歳刻みで平均値を計算することで、イデオロギーラベルごとの回答者の理解のパターンを検証する。次の節では、各党のイデオロギー位置について分析し、2節では、それぞれのラベルについて適切と思うかどうかという評価について検討する。

##### 4.1. 各党のイデオロギー位置認識

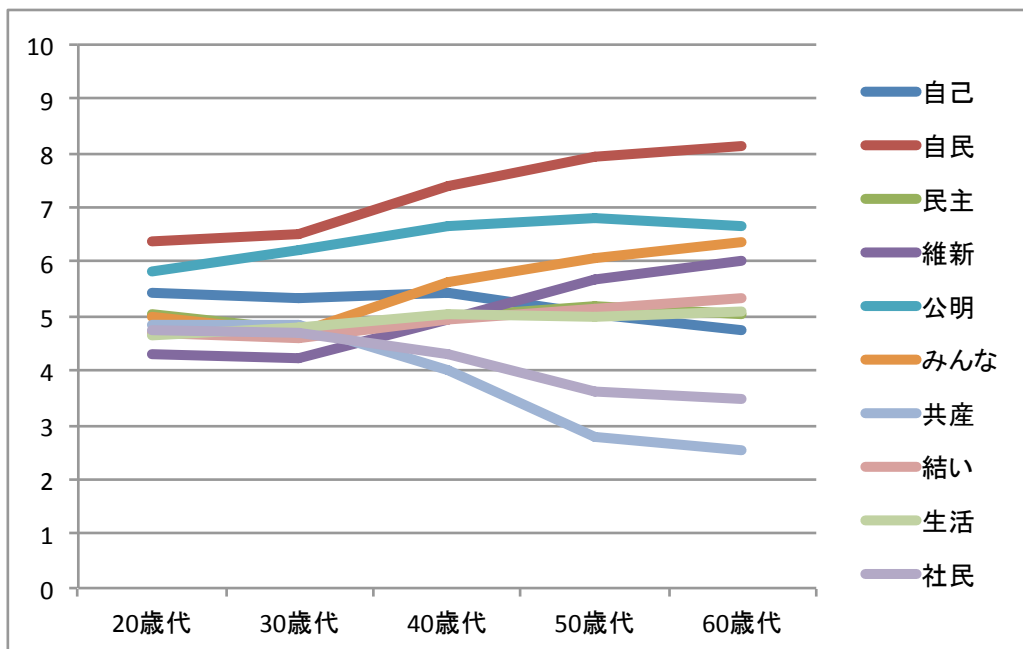
イデオロギーラベル・グループごとに、それぞれの世代の自己と政党のイデオロギー

---

<sup>8</sup> 質問文作成の際には、朝日新聞社全国世論調査「あなたにとって政治とはー」（2007年）を参考にした（高木・吉田・前田・峰久，2007）。

位置の平均値を並べたものが図 1-3 である<sup>9</sup>。まず、「保守的-革新的」グループでは、遠藤とジョウが確認してきた政党配置パターンが再現された（図 1）（遠藤・ジョウ，2014；Endo and Jou, forthcoming）。すなわち、50 歳代以上の回答者は伝統的な保守配置（自民 vs. 共産）を認識しているのに対して、40 歳代までの回答者では共産党ではなく日本維新の会が最も革新的な政党と位置づけられている。竹中（2014）の JIGS 有権者調査データでもこの傾向は確認されており、40 歳代と 50 歳代の間にあるこの断絶が構造的なものであることが強く示唆される（Endo and Jou, forthcoming も参照）。

図 1 イデオロギー位置の年代別平均値、保守的-革新的（保守的 10-革新的 0）



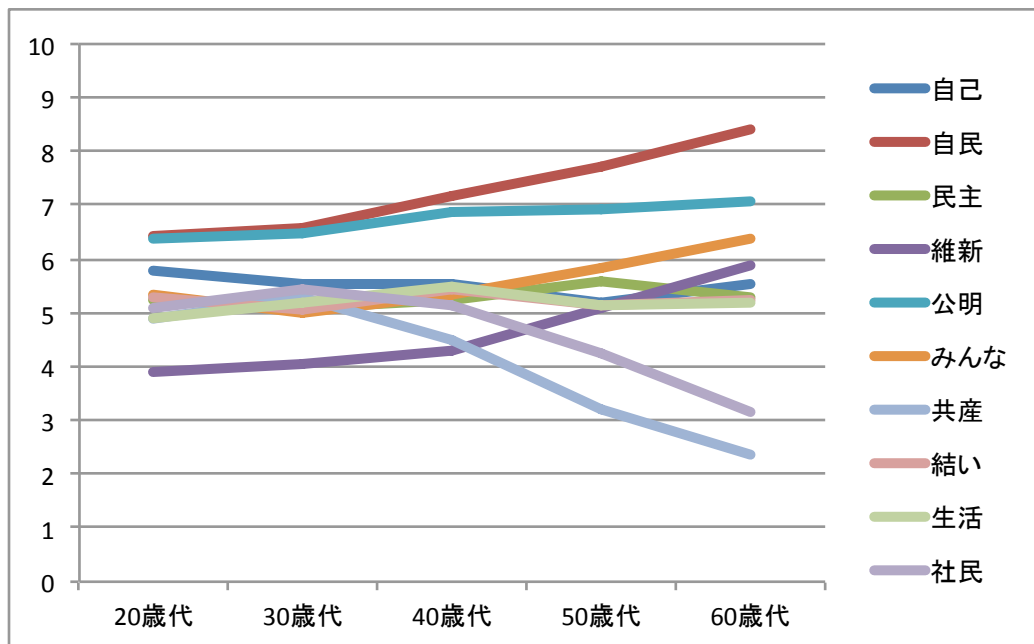
次に、「保守的-リベラル」グループでは、その傾向性が弱まるものの、「保守的-革新的」グループと同様のパターンを示している（図 2）。つまり、高齢層では自民と共産が規定する形で保守リベラル空間が理解されている一方で、若い回答者では、共産ではなく維新が最もリベラルだと認識されているという結果である。ただし、この場合は、維新と共産が正しく逆転する分岐点が 30 歳代と 40 歳代の間となっており、「保守的-革新的」グループよりもその分岐点が低い。

遠藤・ジョウ（2014）は革新という言葉自体の本来の意味から、この語が「改革」として連想され、そのため維新が革新側に位置づけられうると議論した。しかし、リベラ

<sup>9</sup> わからない（DK）とこたえたくない（NA）については、欠損値として分析から除外した。

ルという語自体には、一般の有権者が「改革」と結び付けるような要素はあまりなく、リベラルでも維新が最も極端な位置を占めるという現象は興味深い。保守ラベルとあわせて、この現象はさらに検討する必要があるだろう。

図 2 イデオロギー位置の年代別平均値、保守的-リベラル(保守的 10-リベラル 0)



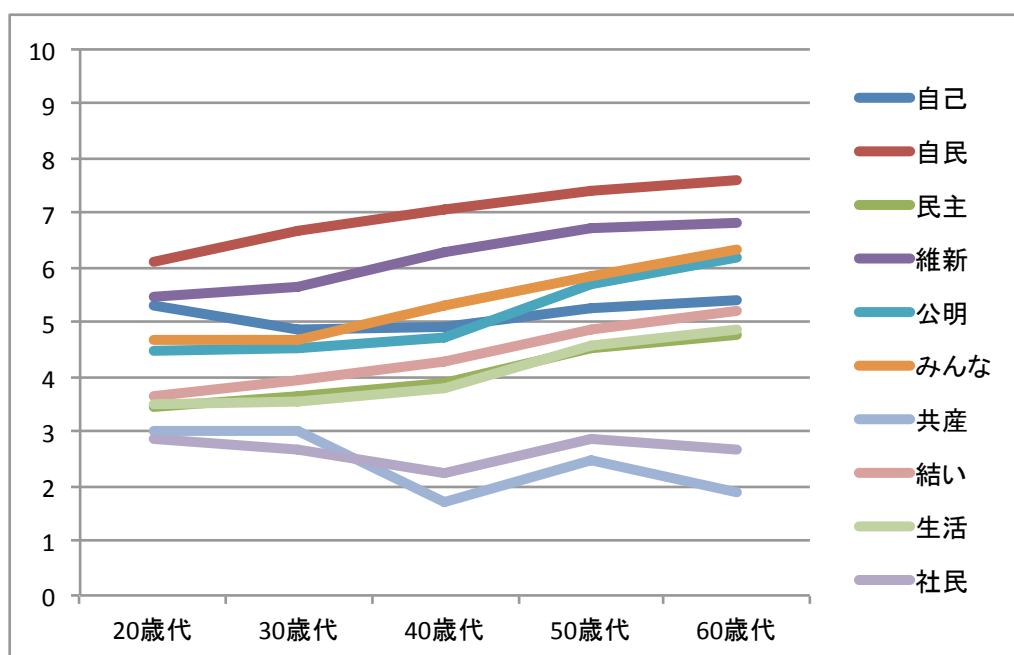
最後に、「右-左」グループでは、他の2グループとは異なるパターンが示される(図3)。「右-左」で尋ねると、年代別の理解に構造的な違いはなく、右側には自民党と維新が、左側に共産党と社民党が配置される。ただし、もっとも左の政党は、30歳代まではわずかながら共産よりも社民と認識されている。また、他のラベルでは一貫して自民党とともに保守的に捉えられてきた公明が、やや中央による形となり、ほぼ中央にいた民主が左側に配置されている。民主から分裂した生活は、民主とほとんど位置が変わらない。

特徴的なのは、図1-3では、他の二つのラベルのグラフが図の左側(図1-2の若年層)に絞れた形状を示している一方で、「右-左」ラベルの場合(図3)、全体的に線の間にはばらつきが観察されることである。つまり、「右-左」ラベルの場合、他のラベルのときと比べて、ほとんどの年代でイデオロギー認識の幅が広がる(図4)。

たとえば、20歳代の認識しているイデオロギー分極度(最も革新/リベラル/左の政党と最も保守/右の政党の差)は、保守革新で2.51、保守リベラルで2.07なのに対

し、右・左では3.23になる<sup>10</sup>。30歳代になると、それぞれ2.51、2.30、4.05とさらにその差は広がる。ラベル間の分極度の違いが最も大きいのは40歳代であり、「保守的-革新的」ラベルだと若年層並みにしか政党間の差(2.90)を認知していないのに、「右-左」ラベルだと政党間対立(5.35)を高年齢層並みに鮮明に描き出す。このことは、この年代にとって保守革新というラベルの有用性が低いものの、それまでの政治的経験によって、政党政治レベルでの対立を把握している可能性を示している。少なくとも、図3を見る限り、共産・社民が「左」派政党であるということは明確に認識しているために、このような現象が起きていることになる。50歳代・60歳代の高年齢層については、いずれのラベルでも同程度の分極度を示しており、ラベルを超えて同じ政党間対立認識を示しているようである。

図3 イデオロギー位置の年代別平均値、右-左(右10-左0)

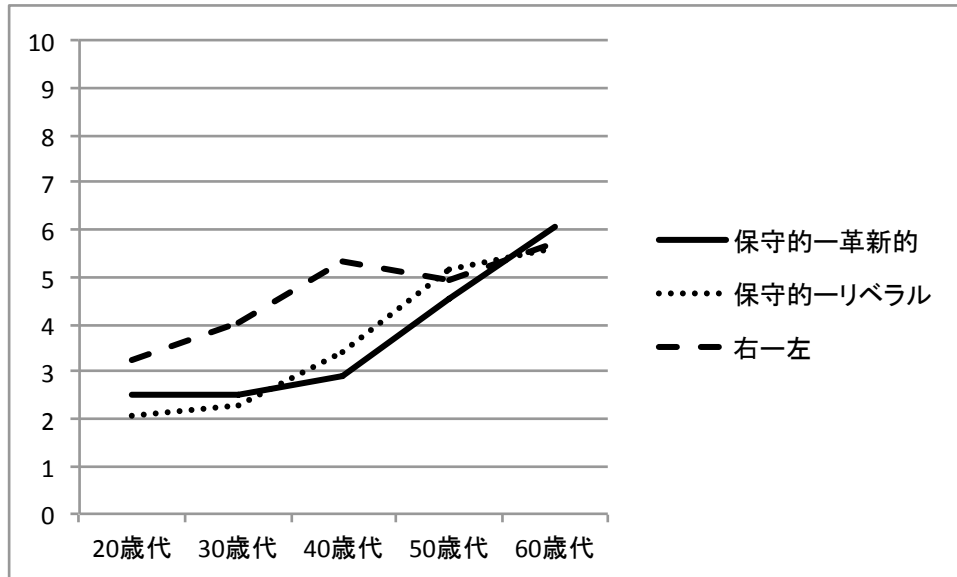


さらにいえば、「右-左」ラベルでは、他の2つのラベルに比べて、全体的に中立(5)より下に政党が配置されていることも興味深い発見であろう(図1-3)。すなわち、「保守的-革新的」「保守的-リベラル」で尋ねられると、中立よりも「保守的」側に政党を

<sup>10</sup> イデオロギー分極度は、最も保守的/右に位置づけられた政党の平均値から最も革新的/リベラル/左に位置づけられた政党の平均値を引いたものである。Endo and Jou (forthcoming)では個人レベルでの分極度の平均を算出しているが、ここでは集計したものの中での算出値であることを注意されたい。

位置づける傾向があるのに対して、「右-左」で尋ねられると、中立よりも「左」側に政党を配置する傾向がある。

図 4 イデオロギー位置の分極度



縦軸：両極に位置づけられた政党の距離

図 1-3 の結果から、「保守的-革新的」「保守的-リベラル」ラベルでは世代間の認識のねじれがある一方で、「右-左」というラベルでは一貫した枠組みで政党間対立が認識されていることが示された。この結果だけから、「右-左」ラベルを用いて有権者のイデオロギー態度を測ることが推奨されるべきであると結論付けることは早計であろう。なぜなら、図 1-3 の結果は、わからない (DK) とこたえたくない (NA) を欠損値として分析をした結果であり、その意味では、回答者の理解の一部しかみていないといえるからである。指標の妥当性を検討するためには、さらに DK 回答についても比較をする必要があるだろう。

図 5-7 はそれぞれの質問に対して「わからない」と答えた回答者の割合である (DK 率)。総じて右下がりの傾向を示しており、若年層で DK 率が高く、高齢層で DK 率が低いことがわかる。ほとんどのラベル・年代で自己のイデオロギー位置の DK 率が最も低い。政党別にみても、いずれのグループでも自民や維新で DK 率が低く、結いと生活では DK 率が高い。結いと生活が設立され活動してきた期間の短さを考えれば、このことは自然であると考えられる。



図5 DK率、保守的-革新的 (%)

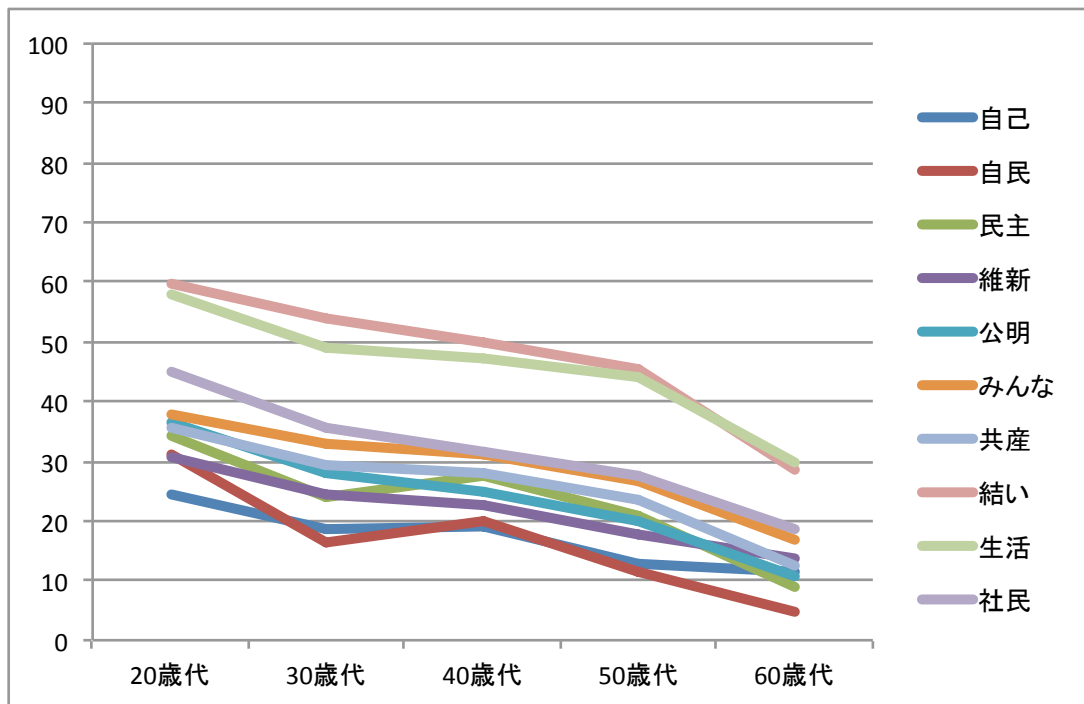
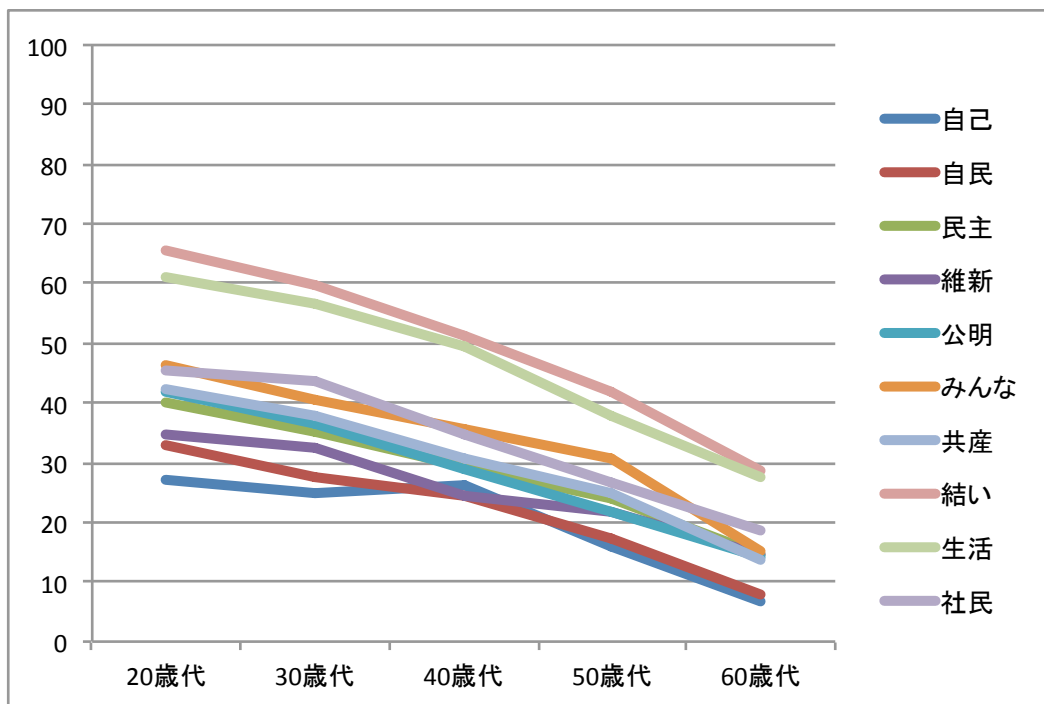
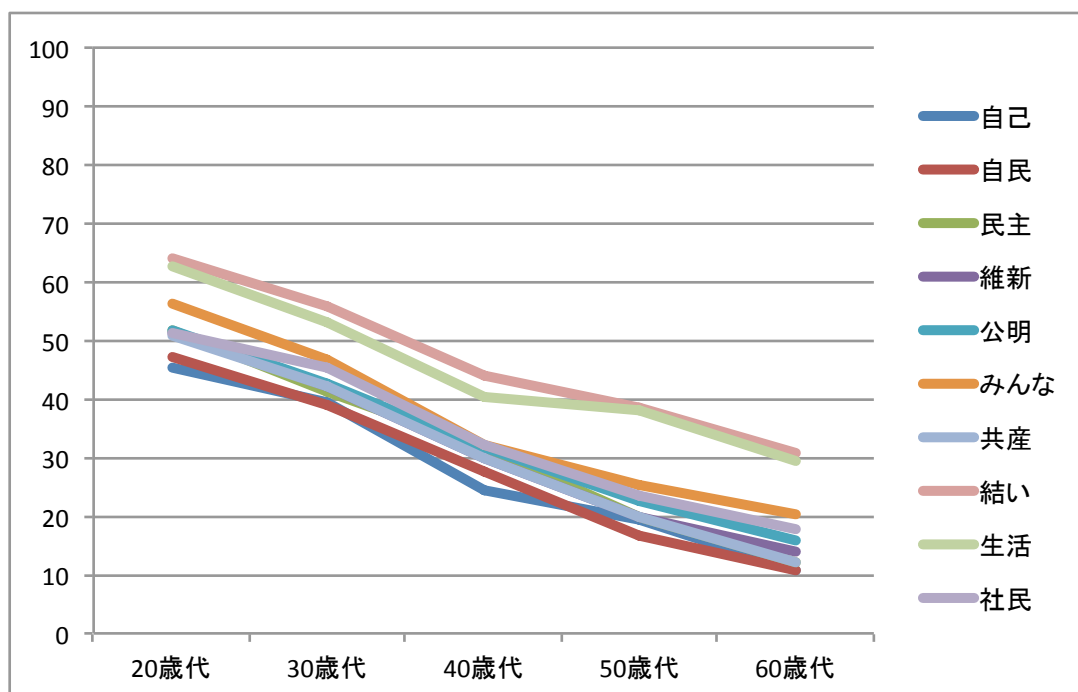


図6 DK率、保守的-リベラル (%)



この中で、最も簡単に答えられると思われる自己のイデオロギー位置をグループ間で比較してみよう。DK率が最も低いのは「保守的-革新的」グループで、それに次ぐのが「保守的-リベラル」グループである。「右-左」グループはDK率が最も高く、たとえば、20歳代だと保守ラベルでは24.6%がDK回答であるのに対して、保守リベラルでは27.0%であり、右・左になると45.6%にまであがる<sup>11</sup>。つまり、「右-左」ラベルでイデオロギー位置を聞かれると、およそ2人に1人が自分の位置ですら「わからない」と答えていることになり、このことは「右-左」ラベルが難易度の高い指標である可能性を示唆する。

図7 DK率、右-左 (%)



#### 4.2. イデオロギーラベルに対する主観的評価

さらに、イデオロギーラベルに対する有権者の主観的な評価をみていこう。「タカ派-ハト派」「抵抗勢力-改革派」を加えた5つのイデオロギーラベルが政治的立場を説明するのに適切か否かをすべてのグループで尋ねた。「適切である」と「どちらかといえば適切である」の割合を合計した結果を図8に示した。DK・NA回答については欠損値として処理をしていない。年代別に比べてみると、総じて40歳代までの数字は横ばいで、

<sup>11</sup> ただし、60歳代においてのみ保守リベラルが最もDK率が低くなる。

その後、適切だと評価する人が増えているように見える。重要な事は、40%台と過半数をこえていないとはいえ、どの年代でも「保守的-革新的」が最も適切だと考えられているということである。他の2つのラベルに比べても10%ほど高い値を示している。また、その次に適切だと思われているラベルとしては、40歳代以下では、「保守的-リベラル」か「右-左」であるのに対して、50歳代以上では、「保守的-リベラル」か「タカ派-ハト派」になることは興味深い。年齢が上がるごとに「タカ派-ハト派」ラベルの評価が高まっていくという現象は、50歳代以上において、安全保障を軸とした伝統的なイデオロギーが根付いていることを示唆しているのかもしれない。このことは、若年層に比べて高齢層の方がイデオロギー自己位置を安全保障の次元で意味づけているという三輪（2014）の議論とも整合的だと思われる。

さらに、適切か否かの設問に対するDK率を見ると、やはり40歳代までは横ばいで推移し、50歳代になるとDK率が低くなることを示されている（図9）。若年層においては、どのラベルについても40%くらいがそれが適切か否かを判断できない。ただし、ラベルごとの差異はそれほど大きくなく、5-7%程度である。その中でも、「保守的-革新的」ラベルについては、比較的DK率が低い。「右・左」ラベルも低い方である。その一方で、「保守的-リベラル」はどの年代でも最もDK率が高い。

図8 イデオロギーラベルの適切性評価

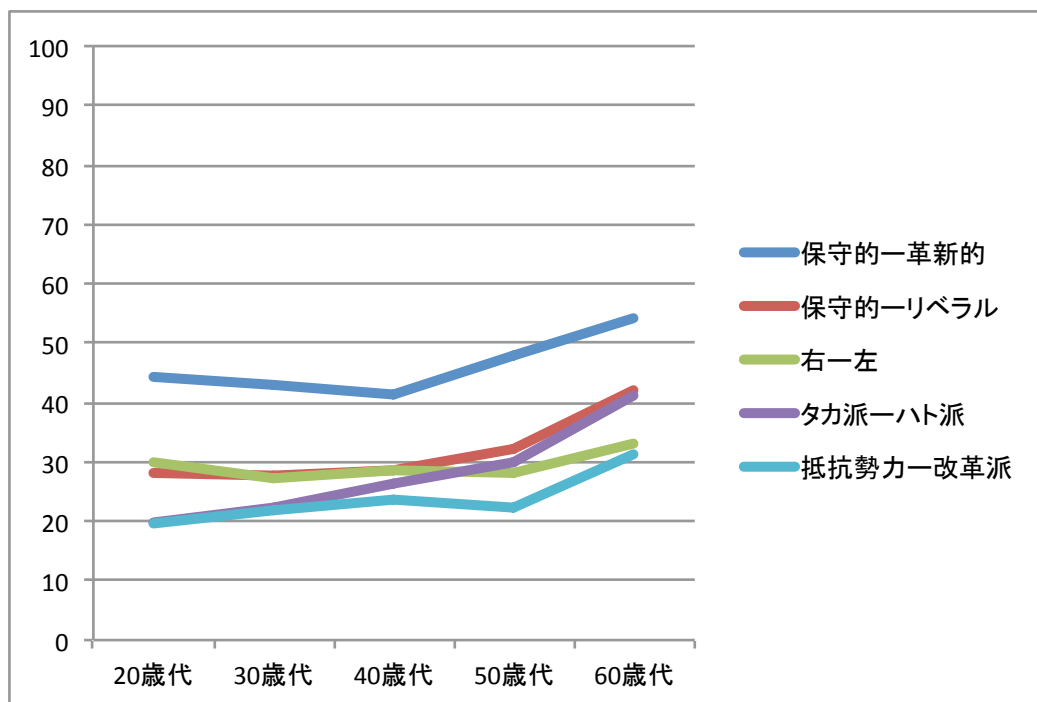
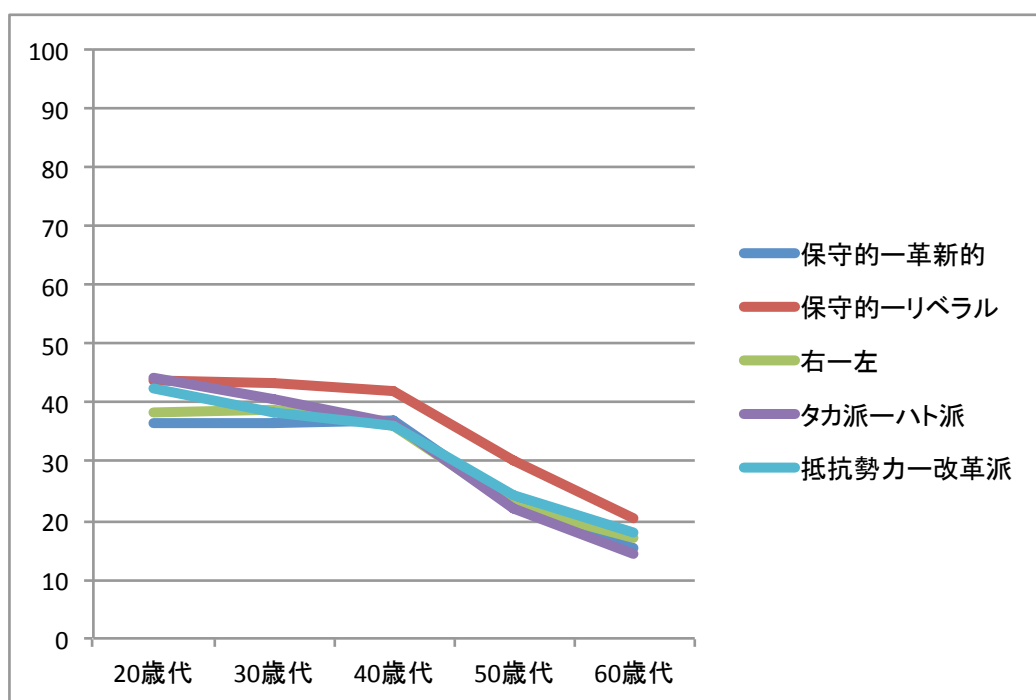


図 9 イデオロギーラベルの適切性評価、DK 率



## 結論

本稿では、イデオロギーラベルについてのウェブ調査実験の結果を概観しながら、有権者の持つイデオロギーラベルに対する理解を検討してきた。伝統的な保革イデオロギー理解において世代間断絶が指摘されている中で、有権者の中のイデオロギーの様態をそのラベルに対する理解を手掛かりに考察しようというのがこのウェブ調査実験の目的である。3つのラベルの実験結果を個別に検討し、それを総合してみると、有権者が政党間対立をどのように認識しているかについて興味深い姿が浮かび上がる。

イデオロギーラベルとしてもっとも広く用いられてきた「保守的-革新的」ラベルについていえば、どの世代であれ有権者はいまだにそのラベルの有効性を認めているが、それが意味するものについては世代によって異なる。「保守的-リベラル」ラベルについても保革ラベルと同様のパターンを示すが、有権者からの適切性の評価は高くない。「右-左」というラベルに沿った政党間対立認識は、他の2つのラベルとは異なり、世代を超えて共通しているものの、特に若い世代ではこのラベルの認知率は低く、およそ半数は自己の立場ですら認識できず、「わからない」と答えてしまう。これは、「右」「左」という語が「保守」「革新」「リベラル」という語に比べて抽象的で、語感から思考の手掛かりを得るのが難しいからかもしれない。

このような異なるイデオロギーラベルの理解を考えると、参考とすべきは維新の位置であろう。遠藤とジョウは保革ラベルでの維新と共産の位置をみて、有権者の中に捻れた2つの政党間対立を発見した(遠藤・ジョウ, 2014; Endo and Jou, forthcoming)。これはいわば、「革新」側に焦点をあてて、そのイデオロギーラベルとしての機能の減退を論じる試みであったわけだが、そこでは革新という語が改革イメージと結びついて可能性を論じた。しかし、今回の調査実験でわかったことは、必ずしも「改革イメージ」を喚起しないリベラルというラベルを用いても、若年層は維新を保守側ではなくリベラル側に位置づけるということである。他方で、右・左ラベルでは維新を右側に(他の政党と比べて)明確に位置づけるということを見ると、革新／リベラル／左側だけでなく、「保守的」というラベルと「右」というラベルの間にも意味の乖離があるとみたほうがいいのかもかもしれない。実際、比較的一貫したイデオロギー理解を示している高齢層に目を向けてみても、右ラベルが与えられれば、維新は自民の次の右派政党であるが、保守ラベルが与えられた時には、自民・公明・みんなに次ぐ4番目に保守的な政党にすぎない。つまり、それほど揺らいでいるとは考えられてこなかった「保守的」と「右」の意味も再検討する必要があることが示唆されるのである。いずれにせよ、世論調査でどのイデオロギーラベルが妥当な指標となるのかについては、結論が出ず、更なる探求が必要となる。

## 参考文献

遠藤晶久・ウィリー・ジョウ, 2014, 「若者にとっての『保守』と『革新』: 世代で異なる政党間対立」『アステイオン』80号, 149-168.

Endo, Masahisa and Willy Jou, forthcoming, “How Does Age Affect Perceptions of Party’ s Ideological Locations?” 『選挙研究』第30巻第1号.

蒲島郁夫・竹中佳彦, 1996, 『現代日本人のイデオロギー』東京大学出版会.

蒲島郁夫・竹中佳彦, 2012, 『イデオロギー』東京大学出版会.

三輪洋文, 2014, 「保革自己イメージの意味づけに関する有権者の不均質性」日本選挙学会報告論文.

大嶽秀夫, 1999, 『日本政治の対立軸: 93年以降の政界再編の中で』中央公論新社.

高木文哉・吉田貴文・前田和哉・峰久和哲, 2007, 『政治を考えたいあなたへの80問: 朝日新聞3000人世論調査から』朝日新聞社.

竹中佳彦, 2014, 「利益表出におけるイデオロギー: 選挙・圧力団体・マスメディア」日本選挙学会報告論文.

補遺表 1 イデオロギー位置の年代別平均値

	自己	自民	民主	維新	公明	みんな	共産	結い	生活	社民
<b>保守的-革新的</b>										
20歳代	5.79	6.41	5.26	3.90	6.36	5.34	4.91	5.27	4.90	5.10
30歳代	5.53	6.56	5.09	4.05	6.47	5.00	5.28	5.06	5.17	5.46
40歳代	5.55	7.18	5.23	4.28	6.86	5.35	4.52	5.46	5.49	5.16
50歳代	5.18	7.74	5.57	5.11	6.91	5.82	3.19	5.14	5.16	4.23
60歳代	5.53	8.42	5.30	5.88	7.05	6.40	2.34	5.26	5.21	3.14
<b>保守的-リベラル</b>										
20歳代	5.42	6.38	5.05	4.31	5.81	4.98	4.83	4.69	4.65	4.74
30歳代	5.35	6.53	4.75	4.23	6.24	4.70	4.85	4.58	4.80	4.68
40歳代	5.43	7.40	4.99	4.96	6.64	5.61	3.99	4.96	5.02	4.32
50歳代	5.06	7.93	5.20	5.66	6.81	6.07	2.77	5.13	5.01	3.64
60歳代	4.73	8.15	5.03	6.00	6.68	6.38	2.52	5.34	5.10	3.48
<b>右-左</b>										
20歳代	5.33	6.11	3.43	5.47	4.48	4.68	3.01	3.65	3.48	2.88
30歳代	4.87	6.70	3.64	5.66	4.53	4.69	3.02	3.95	3.56	2.65
40歳代	4.90	7.06	3.88	6.27	4.73	5.31	1.71	4.26	3.80	2.24
50歳代	5.26	7.40	4.55	6.74	5.72	5.85	2.47	4.88	4.57	2.86
60歳代	5.42	7.63	4.77	6.82	6.18	6.34	1.89	5.21	4.85	2.67

保守的 (10) -革新的 (0)、保守的 (10) -リベラル (0)、右 (10) -左 (0)

補遺表 2 イデオロギー位置の分極度

	保守的—革新的		保守的—リベラル		右—左	
	組み合わせ	分極度	組み合わせ	分極度	組み合わせ	分極度
20歳代	自民—維新	2.51	自民—維新	2.07	自民—社民	3.23
30歳代	自民—維新	2.51	自民—維新	2.30	自民—社民	4.05
40歳代	自民—維新	2.90	自民—共産	3.41	自民—共産	5.35
50歳代	自民—共産	4.55	自民—共産	5.16	自民—共産	4.93
60歳代	自民—共産	6.08	自民—共産	5.63	自民—共産	5.74



補遺表 3 イデオロギー位置のDK率 (%)

	自己	自民	民主	維新	公明	みんな	共産	結い	生活	社民
<b>保守的-革新的</b>										
20歳代	24.6	31.0	34.5	30.5	36.5	37.9	35.5	59.6	58.1	44.8
30歳代	18.4	16.3	24.0	24.3	28.1	33.0	29.5	54.2	49.0	35.8
40歳代	19.2	20.1	27.7	22.8	25.0	31.3	28.1	50.0	47.3	31.7
50歳代	12.9	11.5	20.7	17.5	19.8	26.7	23.5	45.6	44.2	27.6
60歳代	11.3	4.8	8.9	13.7	10.7	16.7	12.5	28.6	29.8	18.5
<b>保守的-リベラル</b>										
20歳代	27.0	33.0	40.0	34.5	42.0	46.5	42.5	65.5	61.0	45.5
30歳代	24.9	27.4	35.3	32.5	36.5	40.7	38.0	59.9	56.5	43.5
40歳代	26.3	24.4	29.5	24.4	29.0	35.5	30.9	51.2	49.3	34.6
50歳代	16.1	17.1	23.9	22.0	22.0	30.7	24.9	42.0	38.0	26.8
60歳代	6.7	7.9	14.6	14.6	14.0	15.2	13.5	28.7	27.5	18.5
<b>右-左</b>										
20歳代	45.6	47.2	51.8	51.3	51.8	56.5	50.8	64.2	62.7	51.3
30歳代	39.5	39.2	41.4	42.3	42.6	46.7	42.0	55.8	53.3	45.1
40歳代	24.5	27.5	31.5	30.0	31.5	32.0	30.0	44.0	40.5	32.0
50歳代	19.2	16.9	19.7	19.7	22.5	25.4	19.7	38.5	38.0	23.5
60歳代	10.6	10.6	12.0	13.9	15.9	20.2	12.0	30.8	29.3	17.8

補遺表 4 イデオロギーラベルの適切性評価

	保守的— 革新的	保守的— リベラル	右—左	タカ派— ハト派	抵抗勢 力—改革 派
<b>適切である+ある程度適切である(%)</b>					
20歳代	44.5	28.2	30.0	19.8	19.6
30歳代	42.9	27.6	27.0	22.3	21.9
40歳代	41.3	28.5	28.5	26.4	23.6
50歳代	48.0	32.1	28.0	29.8	22.5
60歳代	54.2	42.1	33.2	41.0	31.2
<b>DK(%)</b>					
20歳代	36.6	43.6	38.6	44.1	42.6
30歳代	36.6	43.3	39.0	40.7	38.6
40歳代	36.8	41.8	36.2	36.3	35.9
50歳代	23.0	30.1	22.5	22.0	24.1
60歳代	15.3	20.4	17.0	14.3	17.9